

令和4年不動産鑑定士試験論文式試験

会計学(問題) { 満点100点
時間2時間(10時~12時) }

[注意事項]

- 1 問題用紙及び解答用紙は、係官の指示があるまで開けてはいけません。
- 2 これは、問題用紙です。解答は、解答用紙に書いてください。
- 3 問題用紙は表紙を含めて4ページ、解答用紙は表紙を含めて3ページです。
- 4 解答は、解答用紙の所定の欄に、黒若しくは青のボールペン又は万年筆で丁寧に書いてください。鉛筆等で書くと無効となります。
- 5 答案の下書きは、問題用紙の余白部分を利用してください。
- 6 問題用紙は、本科目終了後、持ち帰っても構いません。

* この問題は、令和3年9月1日時点で施行されている法令及び諸規程により出題しています。

問題 1 (50 点)

次の文章は、のれんの会計処理方法について述べたものである。以下の各問に答えなさい。

のれんの会計処理方法としては、その効果の及ぶ期間にわたり「規則的な を行う」方法と、「規則的な を行わず、のれんの価値が損なわれた時に を行う」方法が考えられる。「規則的な を行う」方法によれば、企業結合の成果たる と、その対価の一部を構成する投資消去差額の という の対応が可能になる。また、のれんは投資原価の一部であることに鑑みれば、のれんを規則的に する方法は、投資原価を超えて回収された超過額を企業にとっての利益とみる考え方とも首尾一貫している。(中略)

「規則的な を行う」方法と、「規則的な を行わず、のれんの価値が損なわれた時に を行う」方法との選択適用については、 の手段として用いられる可能性もあることから認めないこととした。

(企業会計基準第 21 号「企業結合に関する会計基準」第 105 項、第 108 項より一部を抜粋し再構成)

- (1) 文中の空欄 から までに入る適切な語句を答えなさい。
- (2) 下線部の「効果の及ぶ期間」について、企業会計基準では最長何年以内と想定されているか答えなさい。
- (3) のれんとはどのようなものか、また、それが貸借対照表に計上される根拠について答えなさい。
- (4) 負ののれんとはどのようなものか、また、それが発生する原因について簡潔に答えなさい。
- (5) 買入れによるのれんが貸借対照表への計上を認められる一方で、自己創設によるのれんの計上認められない理由について簡潔に答えなさい。

問題2 (50点)

次の文章は、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」からの抜粋である。これに関連して、以下の各問に答えなさい。

15. 時価の変動により を得ることを目的として保有する有価証券（以下「売買目的有価証券」という。）は、時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額は当期の損益として処理する。

16. 満期まで所有する意図をもって保有する （以下「満期保有目的の債券」という。）は、取得原価をもって貸借対照表価額とする。ただし、債券を債券金額より低い価額又は高い価額で取得した場合において、取得価額と債券金額との差額の性格が と認められるときは、 に基づいて算定された価額をもって貸借対照表価額としなければならない。

(略)

18. 売買目的有価証券、満期保有目的の債券、子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券（以下「その他有価証券」という。）は、時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額は に基づき、次のいずれかの方法により処理する。

(1) 評価差額の合計額を純資産の部に計上する。

(2) 時価が取得原価を上回る銘柄に係る評価差額は純資産の部に計上し、時価が取得原価を下回る銘柄に係る評価差額は当期の損失として処理する。

(略)

(1) 空欄 から にあてはまる適切な語句を答えなさい。

(2) 売買目的有価証券とその他有価証券はいずれも時価評価されるが、時価評価差額の処理は異なる。これに関して、次の問に答えなさい。

① いずれも時価評価される根拠について、説明しなさい。

② その他有価証券に対しては、 のみが採用されるが、売買目的有価証券には他の方法も採用できる。その会計処理の相違について、説明しなさい。

③ 時価評価差額の処理が異なる理由について、説明しなさい。

④ その他有価証券の評価差額について、時価が取得原価を下回る銘柄に係る評価差額を当期の損失として処理する方法も認められているが、その理由を簡潔に述べなさい。

(以下余白)